

# フタオビコヤガ（イネアオムシ） 情報第1号

平成25年7月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 1 発生状況

6月下旬の水稲巡回調査（県内157ほ場）では、フタオビコヤガ幼虫による被害株率が2.4%（前年：1.6%、平年：1.1%）で、やや多い状況です。前年、発生が多かった地域では、今後の発生動向に注意してください。

## 2 生態

愛知県では年4～5回の発生で、蛹で越冬し4月下旬頃から成虫が発生します。成虫は体長約10mm、開翅長20～25mmの黄褐色の蛾で、前翅に褐色の2本の斜めの帯があり（図1）、これが名前の由来となっています。卵は0.5mm程度のまんじゅう型で、葉裏に数粒ずつ産みつけられます。幼虫は緑色で、老熟すると体長20mm内外でシャクトリムシのように歩きます（図2）。若齢幼虫はかすり状の食害痕（図3）を残しますが、その後は葉縁からかじりとったように食害し（図4）、ひどい場合は葉の中肋のみが残ります。



図1 成虫

図2 シャクトリ歩行する幼虫

図3 初期の被害葉

図4 食害を受けたイネと幼虫

## 3 防除対策

- (1) 穂ばらみ期から出穂期に葉に甚大な食害を受けると、出穂遅延や登熟阻害が発生するので、被害を受けた場合は表の薬剤によりできるだけ早く防除しましょう。
- (2) 葉色の濃い水田や、山沿いの水田では被害が集中する場合がありますので、発生状況を確認して防除を行いましょう。

表 フタオビコヤガの主な防除薬剤

薬 剤 名
パダン粒剤4
パダン粉剤DL
スミチオン乳剤
MR. ジョーカーEW
トレボン粉剤DL
ダントツH粉剤DL
スタークル/アルバリン粉剤DL
MR. ジョーカー粉剤DL

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。